

2010年11月12日（金）から11月14日（日）の3日間、台北市（大会会場：Chien Tan Overseas Youth Activity Center）で開催された The English Teachers' Association, the Republic of China (ETA-ROC)に JACET 代表として参加した。大会テーマ“Methodology in ESL/EFL Research and Instruction”のもと、約150の研究発表、14のワークショップ、3つのパネルディスカッション、100もの出版社関連のセッションなどがもたれ、若干ポスターセッションも設けられた。Neil Anderson, Xutong Deng, William Grabe, Stephen Krashen, Ryuko Kubota, David Nunan, John Read, Fredricka Stoller、以上8名の著名人が今回海外から招請され、特別講演と後に続くワークショップを各人が開催した。Language learning motivation (Anderson)、Reflective journaling (Deng)、L2 reading research (Grabe)、academic language proficiency (Krashen)、critical reflection about EFL instruction (Kubota)、teaching English to young learners (Nunan)、research on vocabulary learning (Read)、needs with a read-analyze-write approach (Stoller)など多領域を包括したセッションで、充実した企画構成であった。この企画は2部構成（前半：理論解説と応用実践への示唆、後半：ワークショップという形をとり、参加者が机上で理解するだけでなく、続けて応用実践のきっかけをつかめるよう、有機的に統合されていた。この中で印象に残ったメッセージを紹介したい。Dr. Krashen の講演で彼が放ったメッセージである。”English as a spoken language by you. ... Your version is legitimate.” これからは ESL, EFL という時代ではない。英語圏の英語だけが正統視される時代が過ぎ去ったことを台湾の若き聴衆たちに訴えていた。

大会2日目の午後に研究発表（paper）の機会を頂き、“Qualitative and quantitative analyses in a self-focused EFL course” というテーマのもと、約30分間のプレゼンテーションを行った（質疑応答時間含む）。英語学習者としてのアイデンティティ(learner identity)確立を促す上で、自分らしさを社会的かつ市民的観点から考究し、その中で不可欠となる語彙の獲得(target language acquisition)と論理構築能力(logical competency)に照射した大学英語授業の取組を紹介した。大学1年生を対象とした半期開講授業(約4ヶ月間)を用いて、自己アイデンティティ確立のために英語を用いるという文脈において、英語学習観や態度ならびに英語学習行動においてどのような変化が誘引されるかを調査すべく、アンケートや課題レポートなどを研究ツールとして用いた。質的および量的分析において、さらには形成的評価と総括的評価にむけて、それらのツールをどのような形で用いるべきかを調査結果と合わせて報告し、改善すべき点について考察も加えた。私の発表後、Thai TESOL からの代表として、Chirasawadi, Sarapol 氏の発表が続いた。Speakers from Sister Organizations として JACET, Thai TESOL, JALT, PALT, KOTESOL からの派遣代表が今回招待され、それぞれ研究発表を行った。

大会全体の印象を概括したい。まず出版関係の展示ブースでは、多数の業者が参加し、そのおよそ8割以上が早期英語教育や小学校英語関連の教材販売に力を入れていた。幼児教育や初等教育での英語の存在とその授業の役割に台湾はかなり力を入れているという印象を受けた。都合により、発表日となった大会2日目を中心に講演や発表、展示ブース等の参加や見学を行った。研究発表については8割以上が英語で行われ、私が散見した限り、比較的若い年齢の発表者（個人、グループ）が目立った。テーマにリンクしながら、英詩を教材とした大学での授業実践報告から携帯やICT活用のものまで、多彩な教育・教授法や授業事例の紹介で大会プログラムは賑わいを見せていた。参加者も大学生をはじめ、比較的若い年齢層と女性陣が目だっていた。上述の展示ブースからして、おそらく小学校、中学、高校で教

鞭をとる教員の参加が少なくなかったことが窺える。

今回このような貴重な機会を与えていた **ETA-ROC President Cheung Kai-chong** 先生、**Conference Chair Leung, Yiu Nam** 先生はじめ、大会準備・運営委員のスタッフの方々に深く御礼申し上げる次第である。